

平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	東日本大震災・暮らしサポート隊
活動テーマ	みちのくだんわ室（東日本大震災による県外避難者さんの癒しの場）



みちのくだんわ室は、2015年3月現在40回（雨天中止を含む）の開催を重ね、避難者の悲嘆緩和、出会い、交流の場を創っている。参加者リストは100名に達し、延べ参加者数は1,100名を越えた。活動開始当時の理念である“癒しの場”の提供の必要性を現在も確認することが出来る。

2014年度は初企画である「出張だんわ室」を開催した。これは、福島に帰郷された方、帰還困難区域のため帰郷はできないが故郷の傍まで戻られた方、新天地（北関東、宮城等）で家族との暮らしを再開された方など、福島県周辺に戻られただんわ室の元参加者の交流の場（同窓会）である。そこで明らかになったのは「避難は終わっていない」、「避難の後遺症」、「避難の今を語る場の必要性」である。さらに、だんわ室たよりの作成を通じて、今も母子避難を続ける避難者の夫の苦悩、不安、支援を求める声が新たに確認された。

避難者の状況や課題は時間の経過とともに変化してきている。今後はみちのくだんわ室の開催回数などの見直しを行ないつつ引き続き関西での憩い、癒しの場を定期的に提供したい。

また、だんわ室が育んだつながりを大切に、福島県周辺の地で避難を続ける避難者の支援（出張だんわ室）ならびに離れて暮らす家族（主に夫）への支援（男のだんわ室）を開催することを検討していきたい。そして、「だんわ室たより」の発行を通じて長期避難の実態ならびに課題を広く情報発信し、一人でも多くの人に共に考える機会を提供していきたいと考える。

【写真】 左上：3周年記念だんわ室 at しあわせの村（6月） 右上：出張だんわ室 in 郡山（9月）
 左下：クリスマス会 at KITTO（12月） 右下：加西フラワーセンター（3月）